

ルネッサンススピーチ（平成 19 年高校選手権大会）

増地克之（2007 年 3 月 21 日）

こんにちは。ただいまご紹介に預かりました、筑波大学柔道部監督の増地です。これから男女の準決勝が行われるまで少しお時間を頂戴しまして、平成 13 年度より講道館と全日本柔道連盟の合同プロジェクトとして推進しています、柔道ルネッサンス活動について、高校選手権に出場されている選手、監督さんはもちろんですが、応援に来られている保護者並びに観客のみなさんに少しでもご理解して頂くために、この場をお借りしまして私の考えを述べさせていただきます。

この柔道ルネッサンス活動は今年で 7 年目を迎えております。そもそもこの活動が始まったきっかけというのは、柔道を志している者が、あまりにも柔道の創始者である嘉納治五郎師範が目指された柔道とかけ離れているのではないかと危惧されたからです。その嘉納師範が目指された柔道というのはどういうものか簡単に申しますと、柔道を志している者があらゆる面で模範となりなさいということです。つまり、道場ではもちろんですが、道場から一步外に出てからつまり社会生活の面において自らを律しなさいということです。

例えば、今、世の中で社会問題として様々な事が取沙汰されております。その原因の一つとして、人として最低限のマナー、常識、礼儀などを身につける人間教育が損なわれているからだと思えます。そこでこういった世の中に対して模範となるためにも、柔道が人間教育の場でないといけないのです。言い換えれば、人間教育になり得ない柔道は、本当の柔道の姿ではないのです。ですから、我々指導者や今日、この日本武道館にお見えになられている大勢の保護者の方々も自らを律しながら行動するとともに、自分の教え子、自分の子供だけでなく、間違った方向に進んでいる者が周りにいれば、正しい方向に導いてやるのが、我々指導者や親さらには大人としての役目だと思えます。

最後に、現在柔道は約 190 の国と地域で行われています。ここまで柔道が普及、発展してきた要因は、競技としての魅力だけでなく、創始者嘉納治五郎師範の位置づけた柔道修行の究極の目的である「己の完成」「世の補益」という教育面が、世界の人々に受け入れられたことによるものです。この柔道をこれからも継承していく為にも、我々柔道を志している者、さらにはどんな形であれ柔道に携わっているものが自らを律しながら行動していくことが重要であると思えます。

簡単ではございますが、以上で柔道ルネッサンス活動を理解して頂くためのスピーチとさせていただきます。これから準決勝を戦う学校は頂点めざして頑張ってください。ご静聴ありがとうございました。